

音楽科

幼・小・中一貫カリキュラムによる音楽科の授業実践

泉谷正則

1 はじめに

何かを学ぶ時、その学習が過去の学習とどのように繋がっているかということに気づくことは、学習への関心を高める。また、そのように学習が繋がり積み重ねることによって、学習内容をより効果的に習得することもできる。しかしながら、現在の学校教育現場では、義務教育における異校種間の連携が充分とは言えない。小学校で学んだことを中学校でどのように伸ばし発展させていくか、また、中学校でどのような姿を目指して小学校で何を学ばせるかについて連携を行うことで、教科としての目標や目的により接近することができると考える。

本学校園は、幼稚園、小学校、中学校が同じ敷地内にあり、運動会などの行事を合同で行うなど、職員同士の連携や子どもたちの交流がしやすい環境にある。そのような環境での実践研究であるが、音楽科における幼・小・中一貫教育について本研究で得た成果が、他校・他地域において異校種での連携を行っていかうとする際の参考になればと考える。

2 授業づくりの基盤となる幼・小・中一貫音楽科カリキュラム

異校種一貫校に見られるカリキュラムに、単元を羅列したものがある。このようなカリキュラムは、学習内容を詳細に表すものではあるが、量的に膨大であり、長期的にどのような能力を培おうとしているのかが分かりにくい。そこで、本学校園の音楽科では、培いたい力をできるだけ簡潔で分かりやすく見渡せ、そこから様々な授業を展開

したり、達成度を評価することが可能となるようなカリキュラムの開発を目指した。具体的には、培いたい力を「関心・意欲・態度」「わかる」「できる」「かんじる」「価値づける」で分類しとらえるものであり、「教育目標の分類学」を初めとして論じられてきた緒論を基に、音楽科の特質や実践に合うように本学校園の音楽科が考案したものである。このカリキュラムでは、全てのつけたい能力を網羅するのではなく、それらをできるだけ一般化し、「各学年で重視したいもの」を述べた。そして、指導例を記載することで、学習をよりイメージしやすくなるように考えた。

以下、それらについて説明する。

(1) 関心・意欲・態度

どのような場面でも不断に求められる行動である。どのような目標をもった授業や場面においても、音楽活動に積極的な感情をもって取り組むことは常に意識されるべきである。

(2) できる

器楽や歌唱などの技能の習得である。

(3) かんじる

学習指導要領で言う「感受」にあたるもので、音楽を形作っている要素やそれらの関係から、何らかの感情を抱いたり、イメージ(色や情景など)を思い浮かべたりする行動である。

(4) わかる

2つの行動からとらえる。1つは、音楽の要素やそれらの関係を「知覚」することである。もう1つは、音楽の要素やそれらの働きを表す用語や記号、楽器の構造や音楽の歴史的・文化的背景などを知識として知ることである。

(5) 価値づける

音楽について、自他の演奏について、以上の「で

表1 幼・小・中一貫音楽科カリキュラム

学年	関心・意欲・態度	できる		わかる		価値づける	
		技能	かんじる	知覚	知識		
	◆音楽活動への関心・意欲・態度	◆鍵盤ハーモニカ、リコーダー、その他の楽器、合唱、指揮	◆音楽の要素やそれらの関係が働いて出す気分や感情や雰囲気を感じたり、色や情景などのイメージをもつ	◆音楽の要素やそれらの関係がわかる。	◆楽器の構造や奏法、演奏形態 ◆作品の歴史的・文化的背景	◆音楽の要素やそれらの働きを表す用語や記号を知る。 ◆音楽の良さについて、積極的に説明する。	
幼稚園	○音楽に合わせて楽器の演奏（タンバリン・スズカステネット・トライアングル・小太鼓・大太鼓・シンバル・木琴・鉄琴） ○素材による楽器作り（例：どんぶりマカス） ○歌唱（季節の歌・行事の歌・手遊び歌など） ○きれいな声でもりあがりや強弱で表現 ○ごっこ遊びの中での歌づくり ○活動にあった歌や音						
1		○鍵盤ハーモニカ（ドのポジションで5指） ○歌唱（模唱で歌える）	○題材からイメージをもつ (例)「はるなつあきふゆ」を「くじら」は元気がよく、「ふわり」は優しく、といったイメージをもつ。	○一定の拍がわかる。 (例)一定の拍で手拍子ができる。 ○強弱の変化がわかる。	・打楽器	(例)私は、音が強いので、明るい感じによる曲だと思います。	
2	○楽しく歌を歌ったり、体を使って表現しようとしている。	○鍵盤ハーモニカ（ポジション移動で5指） ○歌唱（ド〜高いドまでの音程を正しく歌える）	○音楽からよすがや気持ち思い浮かべる。 (例)「人形のゆめと目め」の速さやリズムの違いから、曲の様子を思い浮かべる。	○打楽器の音色の違いがわかる。 (例)「森の森の森」で演奏されている打楽器の音色を聞き取ることができる。 ○2拍子の3拍子の拍の違いがわかる。 (例)「アラバスク」でメヌエットを聴いて2拍子と3拍子の違いがわかる。	・打楽器	・4分音符 ・8分音符 ・2分音符 ・4分音符 ・8分音符	(例)私は、スキップしているみたいだからワグネルの方が好きです。
3		○鍵盤ハーモニカ（指くくり、指またぎ） ○ソプラリコーダー（タンギング、ド〜高いド） ○歌唱（自然な声の出し方で歌う）	○旋律の音の動きやリズムによる雰囲気の違いを感じる。 (例)「山のホルカ」の前半の旋律のリズムと後半のリズムから旋律のイメージの違いを感じる。	○旋律の音の動き（高低）の変化がわかる。 (例)メヌエットの曲想の変化が音の動き（高低）の違いであることに気づく。 ○リズムによる曲想の違いがわかる。 (例)曲の速さは同じだけど、リズムによってゆくりに感じたり急に感じたりすることに気づく。	・金管楽器	・ト音記号 ・五線と加線 ・フレス ・付点2分音符 ・付点4分音符 ・4分の4拍子 ・4分の2拍子 ・4分の3拍子 ・タイ	(例)私は、音が高くなったり低くなったりしてはるなつあきふゆを感じるのでこの音楽が好きです。
4	○進んで音楽にかかわり、意欲的に音楽活動しようとしている。	○ソプラリコーダー（高いミファソ）（サミング） ○歌唱（響きのある声で歌う）	○旋律の終わる感じと続く感じの違いを感じとる。 (例)「とんぼ」の1・2フレーズの違い（続く感じ・終わる感じ）を感じる。	○2つの旋律の違いがわかり、重なり合っていることがわかる。 (例)「ファンタジー」の2つの旋律の違いが感じとることに気づく。	・木管楽器	・リビート記号 ・8分の6拍子 ・スタッカート ・付点8分音符 ・16分音符 ・シャープ ・ナチュラル ・p, mp, mf, f ・クレッシェンド、デクレッシェンド	(例)音が強くなったり弱くなったりして進んでいる感じがするのでこの音楽が大好きです。
5	○進んで音楽にかかわり、意欲的に自分の思いを音楽活動に生かそうとしている。	○ソプラリコーダー（#ソ、#ファ） ○歌唱（速く響かせる声で歌う）	○長調と短調の気分の違いを感じる。 (例)「赤いやねの雲と白い花」を聴き比べて、音楽の気分の違いを感じる。 ○和音の終わる感じと続く感じ (例)「威風堂々」の和音進行から、続く感じと終わる感じの違いを感じる。	○旋律のくりかえしや変化に気づく。 (例)「ハンガリー舞曲」の曲想や速さの変化に気づき、旋律が繰り返されるよすががわかる。 ○旋律に合う和音があることや、主和音の響きの違いや和音の移り変わりに気づく。 (例)「威風堂々」の曲想の変化から特徴的に和音が使われている部分を感じ取り、和音の響きの移り変わりがわかる。	・琴、尺八 ・弦楽器	・アクセント ・ハ音記号 ・全音符 ・半音符 ・2重かっこ ・フラット ・スラー ・長調と短調の音階	(例)「ハンガリー舞曲」を聴いて、「曲がずっと一緒ではなく、場面によって速さの違いがおもしろい」と感じました。
6		○ソプラリコーダー（ソ、#高いド） ○歌唱（音が繰り返す時の声の出し方・響かせ方）	○我が国の音楽や海外の音楽の特徴を感じとる。 (例)「鼓天楽今様」や「アンデスの祭り」のリズムや旋律の雰囲気の違いを感じる。 ○作曲者が曲に込めた思いを歌詞や旋律から感じとる。 (例)「広い空の下」の旋律のあり方と歌詞から、作曲者が曲に込めた気持ちを感じとる。	○曲想の変化を感じ、音楽の仕組みに気づく。 (例)「木星」の曲想と音色の変化から、音楽の仕組みに気づく。 ○和音の響き (例)「威風堂々」の曲想の変化から特徴的に和音が使われている部分を感じ取り、和音の響きの移り変わりがわかる。	・日本の楽器 ・世界の楽器	・速度記号	(例)「世界の国々の音楽」について、音楽や楽器の特徴にふれながら、それぞれの音楽のおもしろさを感じる。
7	○音楽活動を受け入れる。 ○音楽活動に楽しさを覚える。 ○グループ活動をする。 (例)リコーダーや伴奏者を中心に、パート練習やアンサンブルの練習をする。	○アオルリコーダー（低いファ〜高いソ）（サミング）（タンギング）（二重奏） ○等（等の正しい姿勢や基本的な奏法） ○歌唱（バランスのよい姿勢）（呼吸で発声）（曲にふさわしい発声、合唱と反譜）（言葉のままりをばっちり発音する）（2倍音程、重なる声3倍音程） ○指揮（テンポやタイミングをそろえる）	○音楽の要素や要素同士の間隔による曲想の違いを感じる。 (例)「春」について、パイプオルガンの高音で張りのある音色、軽やかなリズムから、鳥の鳴き声や春の明るいつゆ気を感じとる。 (例)「魔王」の音色の変化から、登場人物をイメージする。 (例)「主は冷たい土の中に」の4つのフレーズの違い（続く感じ・終わる感じ）を感じる。 (例)「カプリ 夢の城」の前半（静かでないから）と後半（力強く、弾んだ）の曲想の違いを感じる。	○音楽の要素や要素同士の間隔がわかる。 (例)「春」を聴いて、次のことを聴きとる。 ・各楽器の音色 ・各楽器の相対的な音高の違い ・リズムや強弱の変化 ・形式(ソロと合奏) (例)「魔王」を聴いて、登場人物による音色の違いに気づく。	・アジアの種族の音楽 ・琴、尺八 ・日本の民謡	・音符・休符 ・音高の変化「強弱」「反復」「速度」 ・演奏の仕方などを表す記号 ・和音の音符・休符によるリズム（3連符を含む） ・16分音符・休符は含まない ・大譜表と音名 ・長調と短調の音階（全音と半音） ・階名、主音、調号、臨時記号） ・ハ長調、ヘ長調、ト長調） ・イ短調、ニ短調、ホ短調） ・音階 ・三和音（和音記号、主要三和音） ・主旋律と副次的な旋律 ・旋律の重なり（オクターブ、ハーモニ、違いかけ合い） ・フレーズ（旋律の自然なまとまり）	(例)「映画音楽」を聴いて、作曲者がそのイメージを表現するための工夫（速度、リズム、強弱、楽器の音色など）をしているのについて説明する。
8	○音楽活動に自ら関わろうとする。 (例)パート練習等で、練習の進め方や表現の工夫について意見を言おうとする。 (例)リコーダーや伴奏者に立候補する。 (例)授業内容に関連した音楽を探し、学校外でも音楽を聴いたり、演奏会に行ったりする。	○アオルリコーダー（ソ、#高いド）（三重奏） ○歌唱（のどを開き、胸腔、鼻腔を震動して、奥に力のある歌声で歌う）（混声四部合唱） ○指揮（歌詞や言葉の意味や感情に応じて、歌い方を変える）（混声四部合唱） ○指揮（左手で表現する）	○音楽の要素や要素同士の間隔による曲想の違いを感じる。 (例)「主は冷たい土の中に」の4つのフレーズの違い（続く感じ・終わる感じ）を感じる。 (例)「カプリ 夢の城」の前半（静かでないから）と後半（力強く、弾んだ）の曲想の違いを感じる。	○音楽の要素や要素同士の間隔がわかる。 (例)「夏の日の贈りもの」の4つのパートの役割（主役、副次的な旋律、同じリズムでハーモニとなる旋律）の変化と、それによる音高バランスの変化に気づく。	・パイプオルガン ・オーケストラの楽器 ・世界の種族の音楽（歌） ・日本の郷土芸能 ・歌謡伎 ・文楽 ・オペラ ・ア・カペラ	・16分音符・休符を含んだリズム ・パートの名前（ソプラノ、アルト、男声） ・パートごとの音量のバランス（主旋律、器乐的な旋律、和音をつくる音） ・コードネーム ・曲の形式（1節形式、2節形式、3節形式） ・ソナタ形式、フーガ	(例)ベートーヴェンの「交響曲第五番」について、ソナタ形式（2つの主題の性格とその変化、コーダの役割）やオーケストラの楽器の音色に気づきながら、この曲の良さを感じ、説明することができる。
9	○音楽活動に自ら関わろうとする。 (例)生徒による指揮者を中心に、意見を交わし合いながら、より豊かな合唱表現を追求しようとする。	○アオルリコーダー（ソ、#高いド）（三重奏） ○歌唱（のどを開き、胸腔、鼻腔を震動して、奥に力のある歌声で歌う）（混声四部合唱） ○指揮（歌詞や言葉の意味や感情に応じて、歌い方を変える）（混声四部合唱） ○指揮（左手で表現する）	○音楽の要素やそれらの様々な関係が働いて出す曲想の違いを感じる。 (例)「プルト」を聴いて、音楽の要素（楽器の音色、強弱、リズムなど）によって醸し出される様々な情景を想像する。	○音楽の要素やそれらの様々な関係がわかる。 (例)「風の中の青鳥」の4つのパートについて、3つのパートの役割（主役、副次的な旋律、同じリズムでハーモニとなる旋律）の変化と、それによる音高バランスの変化に気づく。	・クラシック音楽の名曲（合唱、器楽、オーケストラ、バレエ音楽、オペラ） ・種族、民族の音楽（器楽） ・ポピュラー音楽（ロック、ジャズ） ・日本の音楽の歴史 ・音楽著作権 ・音楽史（西洋、日本）	・タイのつりリズム	(例)西洋音楽の歴史から、ある時代の音楽の特徴や様々な背景内容を使って詳しく説明しながら、その時代の音楽の魅力について説明することができる。

きる」「かんじる」「わかる」能力を根拠に、説明したり、批評したりすることである。

次に、このようなカリキュラムを基に展開した授業について述べる。小学校4年生と中学校8年生の合同授業を取り入れた創作の単元である。4年生の学習内容として、「旋律の続く感じ、終わる感じ」「付点4分音符、16分音符」、また、8年生の学習内容として「16分音符・休符を含んだリズム」をねらいとしたものである。

ここでは、まず、この創作活動の前段階として行った単元について述べる。

3 リズム創作（旋律創作の前段階として）

(1) 題材名

パートの重なりを感じてリズムを創作、表現しよう

(2) 題材について

本題材は、音符及び休符と基本的なリズムパターンについて学び、さらに、パートの重なりを感じながら2パートによるリズムを創作し表現するものである。リズムの学習は、合唱の表現を迫及したり、音楽を豊かに感じ取りながら鑑賞したり、自分のイメージに合った音楽を創作したりといったあらゆる音楽活動の基礎となるものである。よって、これを計画的に学習することは、今後の様々な音楽活動への応用を期待することができる。また、リズムを創作する学習は、今後計画している旋律の創作へも繋がる。

(3) 学習指導について

指導にあたって、リズムは「音楽を構成している要素」の1つであり、様々な音楽活動の基礎になることを伝え意欲をもたせる。さらに、この学習が旋律を創作する学習への前段階であることを伝え、今後の学習への繋がりを意識させる。音符を覚えたり、リズムを手拍子で表現したり（リズムカードを利用して）といった内容は短時間で効果的に行う。そして、習得したリズムを活用できるものにするために、個々で4小節のリズムを創

作する学習を行う。その後、パートの重なり（2パートが同じリズム、違うリズム）のおもしろさをポイントに、2パートのリズムをグループで創作し、発表する。このように、訓練的にリズムを習得するだけでなく、創作をすることで、リズムを知覚し表現する能力をより確かに、豊かにするとともに、パートの重なりについても学ぶことができるようにする。

(4) 題材の目標

- リズムによる創作と表現に関心を持って取り組むことができる。
- 色々な音符や休符を組み合わせながら、変化のあるリズムを創作することができる。
- パートの重なり（2つのパートのリズムが同じであったり、違ったりする時のおもしろさ）を感じながら、リズムを創作し、表現することができる。

(5) 題材の計画（全4時間）

- 第1次 音符・休符の名前と長さの確認、リズム打ち。（1時間）
- 第2次 4小節のリズムの創作。（1時間）
- 第3次 グループで8小節で2パートのリズムを創作し発表する。（2時間）

(6) 授業の実際（第2次について）

<本時の目標>

- パートの重なりを感じながら、リズムを創作することができる。

<学習指導の流れ>

- リズムパターンを手拍子で叩く。
- 前時に創作した曲を何人かが発表する。
- さらに音楽としての要素を増やし、2パートのリズムを創作するという課題を確認する。その為のポイントを知る。
- グループでリズムカードを利用しながら創作する。
- 他者の作品を知る。
- 振り返りをする。

授業では、この学習が旋律を創作する学習への前段階であることを伝え、今後の学習への繋がりを意識させた。音符を覚えたり、リズムを手拍子

で表現したりといった基礎的な学習を繰り返しながら、それら習得したリズムを活用して、4小節のリズムを創作させた。その後、パートの重なり（2パートが同じリズム、違うリズム）のおもしろさをポイントに、2パートのリズムをグループで創作し発表させた。次は、生徒の作品である。

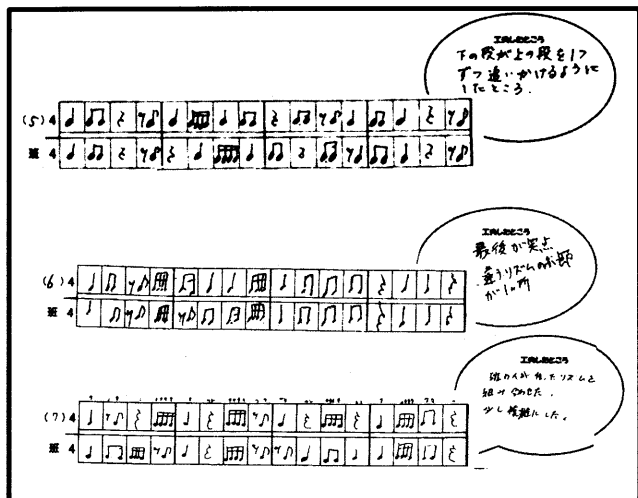


図1 生徒の作品（リズムの創作）

最初は楽譜に慣れていなかった生徒も、グループで創作したり発表の練習をする過程で、楽譜からリズムをイメージすることができるようになってきた。発表には聴きごたえのあるものもあり、他のグループの発表を聴くことで、さらに学習も深まった。旋律の創作に繋げていくということを考えれば、反復や変化など旋律の構成をポイントにリズムを創作させるという方法もあった。

以上のような4小節のリズム創作を学んだうえで、旋律の創作を4年生と一緒にやった。次に、その題材、授業の実践について述べる。

4 旋律創作

(1) 題材名

- いっしょにつくろう
- イメージぴったりの旋律—

(2) 題材について

本題材は、4年生と合同の小グループで、創りたい旋律のイメージや思いをもって4分の4拍子8小節のリコーダーの旋律を創作することによ

て、リズムや旋律などの音楽の要素とそれらが醸し出すイメージについて、学習の深化を図ることができるものである。表現したいイメージをもって創作を始めることで、その後、「音楽の要素とそれらが醸し出す気分や雰囲気」などを何度も結びつけながら学習を深めていくことができる。本校音楽科の一貫カリキュラムの「わかる」「かんじる」と対応しており、新学習指導要領にある知覚・感受の系統的な学習を具現する題材である。生徒は、旋律の創作は初めてである。6月にリズムの創作を行っており、簡単なリズムを楽譜を見てたたくことはほとんどの生徒ができる。小学生とのかかわりについては、6月の運動会で、幼稚園児や小学校4年生と合同で踊りを踊っている。年齢の離れた園児や児童とのかかわりに意欲的で配慮した行動をすることができる生徒が多い。

(3) 学習指導について

指導のポイントは、①学習内容を「習得」させ「活用」させながら系統的に学んでいけるようにすること、そして、②異学年交流によってそのような学習をさらに活性化させ深化を図ることである。①については、本題材に向けて、リズムを「習得」させ、その後、それを「活用」しながら個人でリズムの曲を創作・発表させた。本単元では、このような学習の積み重ねを既習事項として、イメージに合った旋律を創作させていく。②について、4年生が考えたリズムとイメージを素材としながら、8年生がそれをまとめた旋律にしていく。さらに、4年生とその旋律をよりイメージにぴったりにするにはという視点から練り合い、完成させていく。このような学習の過程で、各自の感受や知覚したものが交流され、相互に作用し、学習が深まることが期待できると考える。

(4) 題材の目標

- 旋律の創作や、グループ活動に意欲的に取り組むことができるようにする。
- 表現したいイメージを膨らませ、それらをリズムや旋律に結び付けていくことができるようにする。
- 自分たちが創作した曲を表現したイメージに

合わせて演奏することができるようにする。

(5) 題材の計画 (全6時間)

- 第1次 イメージを膨らませよう。(合同・1時間)
- 第2次 イメージに合った旋律をつくろう。
4年生の創作したリズムを基に旋律を創作する。(1時間)
- 第3次 一緒に旋律を完成させよう。
強弱、速さについて工夫する。(合同・3時間)
- 第4次 発表会をしよう。(合同・1時間)

(6) 授業の実際 (第3次の2時間目について)

<本時の目標>

- ・吹き方、強弱、速さについて話し合い、イメージぴったりの旋律にする。

<学習指導の流れ>

- 前時の振り返りを発表し合う。
- 本時の学習課題を確認する。
- グループごとに、2つのポイントから工夫を考え、楽譜に書き込んで練習をする。イメージぴったりの曲にするためのポイントとして、強弱と速さに気づかせる。
- 中間発表をする。他のグループの演奏を聞いて、気づきを発表する。工夫点は楽譜に書き込み、旋律を楽譜として完成させてから、演奏の練習をする。

- 本時の振り返りを行い、次時の学習内容を確認する。

(7) 生徒の創作した旋律とその評価

4年生の考えたリズム(2小節単位のリズムの断片)を基にしながら、8年生が旋律を創作し、4・8年生で一緒に速さや強弱を工夫して完成させた旋律の1つを図2に示した。

まず、旋律に見られるリズムと音の動きについて、次のような工夫がされていると評価した。

- ・ 1小節目は、春の楽しい感じを表現するために8分音符で4度の音程を反復させている。そのような1小節目の旋律を2小節目も反復することで、統一感を持たせようとしている。
- ・ 3・4小節目は、「春、桜」というイメージから和風な感じを表現しようとしている。日本の音階についての学習はしていないが、生活の中での経験から、和風な感じの旋律を創作している。
- ・ 5小節目で8分音符の5度の音程を反復することで冒頭の旋律を変化して再現させ、曲に統一感を持たせようとしている。
- ・ 6・7小節の旋律の意図はあまりないようで、旋律としてのまとまりや流れが感じられない。
- ・ 8小節目は、音程を下降させ、ハ長調のドを

サクラ咲け

4年生さんが作ってくれたリズムにいい感じのリズムを作ってみました。アップテンポで和風なところもあっていいと思います。ぜんたいときにもどろいっ感があると思いました。

♪つくった旋律♪

明るく

♪吹き方や強弱の理由♪

い い は い は 美 しい よ う な 感 じ な の で m f に しました。最 後 の 2 小 節 は 強 弱 を は き り し て 終 わ り を お り た い の で > < に しました。

図2 生徒の作品(旋律の創作)

最後の音にすることで、旋律が終わる感じを表現しようとしている。

次に、さらにイメージぴったりにしようと、4・8年生と一緒に強弱や速さを工夫した学習について、次のように評価した。

- ・冒頭は、春の明るく楽しい感じを表現するために強弱を「mf」で表現している。
- ・3・4小節の和風な旋律の部分は、「mp」で、具体的な何かを表現しようとおいう意図はないが、変化を持たせようとしている。
- ・5・6小節は冒頭の旋律が変化して反復されるような感じであり、強弱も冒頭と同じmfで統一感を出そうとしている。
- ・7・8小節は「強弱をはっきりして終わりを表したい」ということだが、最後が音程が下降しながらデクレッシェンドで終わる感じは表現できている。クレッシェンドの頂点の「f」と音の動きから考えられるフレーズの頂点が一致していない。

(8) 生徒の振り返り

- ・4年生さんがリズムを作り、8年生が旋律をつくるというのが新鮮で楽しかったです。協力して曲をリコーダーで吹けたのが嬉しかったです。4年生さんの発想は意外でおもしろかったです。
- ・リズムがとても楽しい感じのいい演奏ができたと思います。4年生さんとの交流は楽しくて良かったです。反省点は4年生さんをまとめることができなかったことです。
- ・新鮮なことがたくさんありました。リズム作り→音をつける、と4年生さんと協力して1つの曲をつくったという経験は二度とできないものだと思います。意外な発想にもたくさん触れられて良かったです。
- ・最初は4年生のみんなが仲良くやれてたので良かったけど、しゃべって練習をしない子たちと一生懸命練習して上手くなる子たちで分かれてしまい、途中ケンカになってしまいました。でも、できない子は「負け

ないぞ」という感じで頑張り始めたので逆に良かった気がします。

- ・4年生と交流してリズムをつくるのはとても楽しかったです。班のみんなで協力できたので良かった。リコーダーの吹き方も工夫することができたし、4年生と8年生で合わせた時の感動はすごかったです。
- ・リコーダーで吹く曲をアルトリコーダーにあわせてしまって、ソプラノリコーダーで吹くのは難しかったかなと思いました。
- ・4年生さんとの交流会では色々と協力することができたので良かったです。4年生さんも音楽をつくるためにたくさんおもしろいことを考えてくれたので、8年生の方はとても考えやすくなりました。曲を練習する時も頑張ってくれていたのが良かったです。
- ・4年生がすごく練習してくれてきたので交流がスムーズで良かったです。「季節」からテーマを広げてクリスマスの曲になりましたが、イメージがつかみやすくて、8・4年生お互いに吹きやすかつしっかりと曲に仕上がって、いい流れでした。4年生にもしっかりとかわって教えられたので良かった。

5 成果と課題

カリキュラムに位置づけた学習内容を各学年で個別に学習し、それを基に、4・8年生が合同で創作活動を行うことで、既習の内容を活用させたり、さらに発展的な内容を学習させることができた。8年生は4年生と一緒に考えたイメージを旋律で表現したり4年生の考えたリズムを活かして旋律を創作しようと試行錯誤することができたし、4年生の意外な発想に驚き、またそれを活動に活かそうとしていた。音楽科の少ない授業数のなかでいかに効果的にそして短時間にこのような活動が組めるのか、その為に、内容や活動を厳選していくことが課題である。